

---

『物流 Weekly』連載原稿

『日本ロジファクトリーの物流ケース・スタディー』

“社長！それは違います！” 第97回

---

<タイトル>

「パートの“品格”」

<本文>

昨今、パートの戦力化は物流現場の運営に欠かせない必要条件となった。今や一般社員とパート・アルバイト、そして派遣スタッフの能力に違いなどはないと言えるであろう。待遇と処遇と責任の範囲に違いがあるといえるが、その責任の範囲も個人の意識にバラつきがあり、大差はないと言える。

パート・アルバイトの戦力化が進む中、彼らの二極化が進んでいることも確かである。前述の通り、責任感の有無からくる業務の「品質性」と「生産性」、そして継続性いわゆる「定着率」の二極化だ。これは「なぜパートとして働かなければならないのか」ということに大きく起因していると思われる。

パートとして働く理由には、「取り敢えずお金を稼がなければならない」、「時間に余裕があるのでパートでもしてみたい」、「遊ぶお金がいるのでアルバイトしている」などがある。

一方、「生活費が足りず働かなければならない」、「子供たちの学費分を稼がなければならない」、「夫が病気で仕事ができない」、「住宅ローンが残っている」という人も。パート・アルバイトをしなければならない理由が逼迫していることと、「責任感が強い」ということは深く関係していると私は認識している。また、その責任感は「品格」となって周囲に美しく映っていることも多い。

では、パートにおける「品格」とはどのようなものがあるだろうか。「パート」であることを理由に仕事を断らない、時間厳守であり、かつ残業や早出の要請にも積極的に応じる、仕事のミスや急な欠勤はパート全体またはその現場全体に迷惑がかかることをよく知っている、パートだからと言って責任感の有無には関係ないと思い行動している、社員や管理職に対して正当な理由をもって提案することができる、休憩時間や昼食時間にその会社の悪口を言ったり、他の職場の状況を軽々しく話さない、正社員に負けないくらい仕事を覚え、注意や余計な指示を受けたくないと思い、日々努力しているなどが挙げられる。

品格のあるパートもやはり輝いているし、オーラのようなものがある。皆さんの現場には品格のあるパートさんは何人くらいいますか。(トメ)

---